

(様式2)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	6 5	学校名	宇都宮市立田原小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

## 令和4年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

#### (1) 国・県・市の学力調査などから

- ・とちぎっ子学習状況調査では、5年生は国語・算数・理科の3教科において市の正答率を上回っていた。4年生も、理科の全領域と算数の「知識・技能」において市の正答率を上回っていた。6年生の学習内容定着度調査では、算数と理科の「知識・技能」は市の正答率を上回っていたが、国語、社会、算数、理科の4教科において、観点別の「思考・判断・表現」を市の正答率と比べてみると、市の正答率より低い結果であった。しかし、昨年度との結果と比べると、本校の学力が少し向上したことが伺われる。児童自ら学ぶ意欲を育て、学習内容の確実な定着や理解の深化を図ることが、今後の課題である。

#### (2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「勉強が好き」な児童の肯定的割合は、2年、4年、6年で市の平均を上回った。
- ・宿題等はきちんと提出している児童が多く、自主学習も発達段階に応じて取り組んでいる。家庭での学習時間は、市の平均よりやや上回っているものの、1時間を超えると市の平均より低い。また、「あたらしく習ったことは繰り返し練習している」や「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の肯定割合はほぼすべての学年で市の平均を下回っている。自分で必要性を感じて取り組む家庭学習ができていないと思われる。
- ・平日「テレビ」「ビデオ」「スマートフォンやタブレット、パソコンの動画」を見ている時間は1時間を超えると市の平均より高い傾向にある。
- ・「いろいろな本を読むことは楽しい」と感じている肯定的割合が、市の平均に比べて低い学年が4学年あり、昨年度の本校の肯定率よりも低くなった。今後、本に触れる機会を増やしたり、読み聞かせを工夫したりするなどして、読書の奨励に努めていく必要がある。

#### (3) 授業等への取組状況から

- ・「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していていろいろなことが分かったり、できるようになったりするのうれしい」の質問に対しての肯定割合が、市の平均より高い結果となった。「宇都宮モデル」を参考にして作った「田原っ子の学び（学び合い学習）」の実践により児童の課題意識を高めて学習課題をはっきり理解させ、見通しをもたせた上で、各教科の「見方・考え方」を働かせて課題にじっくり取り組めるように支援してきた成果であると考え。しかし、グループなどでの話合いに自分か

ら進んで参加している児童は少ない。今後も「田原っ子の学び（学び合い学習）」の実践を続け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に更なる学びの質の向上に努めていく。

## 2 今年度の重点目標

### 主体的に考え、学び、高め合う児童の育成

## 3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

### （1） 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の展開

□児童に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う。そのための手立ての一つとして、「宇都宮モデル」をもとにした「田原っ子の学び」を展開し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進していく。

○解き方や考え方が分かるようなノート作りの指導にも力を入れる。

★「田原小学習のやくそく」を配付し、話の聞き方、発表の仕方など、基本的な学習態度の定着を図る。（通年）

・朝の学習時間（火・木・金曜日8:15～8:30）を「基礎学習の時間」とし、火曜日を国語の日、木曜日を算数の日、金曜日を視写の日に設定し、学校全体でこの時間を有効に使うようにする。

★児童の資質や能力の把握に努め、個別指導や少人数指導、習熟度別指導、TT、専門性を生かした教科担任制、かがやきルームの活用、学年内交換授業等の推進により指導の充実を図る。

□各教科において文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深める学習の場を設定し、授業改善を図る。

□児童相互の学び合いの場等で「話す・聞く」を中心とした言語活動を取り入れた授業を実践する。

### （3） GIGA スクール構想

○児童一人一人に応じた探究的・協働的な学びの実現を目指し、各学年の発達段階や実態に応じた個々の基礎スキルを身に付けさせるとともに、活用の日常化を図る。（基礎的な操作・活用スキルの習熟）また、スキルの定着度により協働的な学びのツールとしてもステップアップを目指す。

### （4） 家庭学習の定着を図り、児童自らが必要性を感じて取り組む手立てを行う。

□学年の発達段階に応じて宿題の出し方や内容を工夫し、適切な分量（10分×学年＋10分）や1人1台端末を活用しながら、家庭学習の習慣の定着を図る。（通年）

・単元や学期ごとに復習する機会や学年末のまとめの学習月間を設けたり、家庭学習強化月間を設け漢字・計算オリンピックを実施したりして、各学年で身に付けるべき基礎・基本を確実に習得させる。

・「家庭学習のすすめ」「自主学習のすすめ」を各家庭に配付し、保護者に協力を仰ぐ。

- ・学習した内容をきちんと習得するには、あたらしく習ったことを繰り返し練習したり、授業で習ったことをその日のうちに復習したりする必要があることを児童に示し、家庭学習の習慣化と充実を図る。
- ★年間2回校内読書週間を実施するとともに、読書週間期間中と夏休みに「親子読書」を行ったり、毎月第3土曜日に家読の日に設定したりして、読書の奨励に努める。